

平成 29 年度教育課程研究指定校事業追加募集公募研究課題

平成 29 年度における国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業の以下に掲げる公募研究課題（以下、「公募課題」とする。）について、追加募集を行います。

なお、小学校には義務教育学校前期課程を、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程を含みます。

【公募課題 2】各教科等に係る研究課題

小学校：国語，理科，生活，音楽，家庭，体育，外国語活動，特別活動

中学校：国語，社会，理科，音楽，美術，技術・家庭，外国語，道徳，
総合的な学習の時間，特別活動

公募課題 2 各教科等に係る研究課題

【小学校】

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2 年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解，能力の定着が求められている。
 - また，学習指導要領の実施状況に関して，ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について，その学習状況を把握し，今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的，内容等

本研究では，各教科等において，児童の確実な理解，定着が望まれる内容に係る教育課程の編成，指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて，ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため，これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み，今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には，下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか，応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また，①，②・・・と複数の内容が提示されている教科等については，特に指示のある場合を除き，その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成 28 年度に研究指定校として委嘱されている学校が，平成 28 年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は，それらの成果等を基に新たに平成 29 年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確

にすること。

| | |
|----|---|
| 国語 | <p>②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当）</p> <p>○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究（下記の(ア)～(イ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)全国学力・学習状況調査の調査問題そのものや授業アイデア例を実際の授業に位置付けた単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究</p> <p>(イ)B問題に係る課題を基にし、習得したことを活用して思考力や判断力、表現力を高める単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究（例：記述力）</p> |
| 理科 | <p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①教育課程全体に係る課題</p> <p>(イ)実生活などとの関連を図る指導法等の研究</p> <p>②全国学力・学習状況調査等に係る課題</p> <p>(エ)観察・実験の計画及び実施における効果的な指導方法の研究</p> |
| 生活 | <p>○思考を促す学習活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め児童の意欲の向上につながる主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法の研究</p> |
| 音楽 | <p>○思いや意図をもって表現したり、音楽を全体にわたって味わって聴いたりする主体的、創造的な学習を実現する指導方法等の研究（下記の(ア)又は(イ)に該当するもの）</p> <p>(ア)「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」の指導と評価の充実に関わるもの</p> <p>(イ)「我が国の音楽」を学習素材として扱うもの</p> |
| 家庭 | <p>◇下記の①②のいずれか1つ又は両方に取り組むものとする</p> <p>①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究</p> <p>②学習指導要領実施状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究</p> |
| 体育 | <p>◇運動領域と保健領域の両方に取り組むものとする</p> <p>【運動領域】</p> <p>○2年ごとのまとめりとして示されたA～Fの各領域の指導内容の(3)「思考・判断」に関する内容について、それまでに身に付けた知識や技能を基に思考・判断し、児童自らが課題解決を図るための効果的な指導と評価の在り方についての研究（A～Fの各領域のうち、いずれかの領域を選定し、6年間の発達を踏まえた研究を進めること。その際、選定した領域について2年間ごとの指導計画を立てること）</p> <p>【保健領域】</p> <p>○身近な生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それら表現する力の育成を目指して、「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)～(エ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)第3学年の「(1)毎日の生活と健康」</p> <p>(イ)第4学年の「(2)育ちゆく体とわたし」</p> <p>(ウ)第5学年の「(1)心の健康」</p> <p>(エ)第6学年の「(3)病気の予防」</p> |

| | |
|-------|--|
| 外国語活動 | <p>◇以下の①又は②のいずれかを一つ選択すること</p> <p>①子供が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための指導方法とその評価方法の研究</p> <p>②中学校へのスムーズな接続を意識した学習内容と指導方法の研究</p> |
| 特別活動 | <p>○学習指導要領に「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動，人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。」と示されていること，また，国立教育政策研究所において特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」が作成・全国配布されたことを踏まえ，特別活動で育てたい思考力，判断力，実践力（表現力と実行力）を育成するための指導方法やいじめの等の未然防止につながる指導方法などの研究開発</p> <p>① 合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫</p> <p>② 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫</p> <p>③ いじめの未然防止等につながる集団(活動)育成のための指導の工夫</p> |

【中学校】

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
 - また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成28年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成28年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成29年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

| | |
|----|---|
| 国語 | ②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当） 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究 |
| 社会 | ○課題を追究したり解決したりする活動を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究 |
| 理科 | ①生徒の主体的な学びを促し、科学的な思考力・表現力を高める研究 科学的な思考力・表現力を高めるために、「問題を見だし観察・実験を計画する学習活動、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動」等の学習活動を取り入れた単元を構成して、生徒を主体的にする教材の開発や単元の構成に工夫を加えることの効果について研究する。 その際、例えば、「十分な観察・実験の時間や探究する時間の設定」「ものづくりの推進」「継続的な観察などの充実」「博物館や科学学習センターなどとの連携」な |

| | |
|-------|--|
| | どと関連付けて取り組むことも考えられる。 |
| 音 楽 | ○音楽的な感受を支えとして、「A 表現」領域と「B 鑑賞」領域の関連を図り、音楽の特性に即した思考力・判断力・表現力を育成する主体的、創造的な学習を実現する指導方法等の研究（下記の(ア)、(イ)のいずれかに該当するもの） (ア)「音楽表現の創意工夫」又は「鑑賞の能力」の指導と評価の充実に関わるもの (イ)音楽文化についての理解を深めることに関わるもの |
| 美 術 | ○「A 表現」及び「B 鑑賞」の相互の関連を図り、美術科において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした指導方法等の工夫改善についての研究（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること） (ア)造形的な視点を豊かに持ち、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成する指導方法等と学習評価の研究 (イ)造形的な視点を豊かに持ち、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成する指導方法等と学習評価の研究 |
| 技術・家庭 | ◆技術分野と家庭分野の両方又はいずれかの分野に取り組むものとする 【技術分野】 ◇下記の①～③のいずれか一つに取り組むものとする ①技術分野が目指す「適切な技術の発達を主体的に支えることのできる資質・能力」や「技術革新を牽引する力の素地となる資質・能力」の育成を、3年間を見通して計画的に育成するための方策と、育成状況の評価の在り方について ②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で、今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と、その習得を図る指導と評価の在り方について ③E S D、知的財産権教育、防災・安全教育、道徳教育等、今後技術分野で特に重視すべき教育の、技術分野の特質を生かした指導と評価の在り方について （なお、重視すべき教育については、学校の実態に応じて例示以外を取り上げてもよい） 【家庭分野】 ◇下記の①②の両方に取り組むものとする。 ①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究 ②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究 |
| 外 国 語 | ○教科書等の本文で取り上げられている題材や言語材料を活用し、生徒が自分の考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心に授業を展開するための指導と評価に関する研究 |
| 道 徳 | ○学習指導要領において、各教科等においても特質に応じた適切な道徳教育を行うこと、道徳教育の全体計画に各教科等で行う道徳教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ、自校の道徳教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道徳教育、それらの要となる道徳の時間の指導方法等の研究 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>(下記の(ア)～(エ)を全て踏まえた具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫</p> <p>(イ)学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応</p> <p>(ウ)各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫</p> <p>(エ)各教科等の道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫</p> <p>(オ)「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫</p> |
| 総合的な学習の時間 | ○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）が主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法等の研究 |
| 特別活動 | <p>① 「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実」が現行学習指導要領に明示されていることを踏まえ、思考力・判断力・実践力（表現力と実行力）を育む学級活動における話し合い活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>② 共生社会の担い手として求められる社会に参画する態度や自治的能力を育む生徒会活動又は学校行事における集団活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> |